
みかんの人生

榛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みかんの人生

【コード】

N9402W

【作者名】

榛

【あらすじ】

まだ、終わりではない。

ちい、と障子の外から声がした。

朝食にと炬燵の上に用意した納豆に伸ばした手を止め、目をやる。
ちい、ちいちい。

真白な障子紙に落ちる影は、小さな鬚くちげを開き囀なげっている。呼ばれている、何故だかそんな気がした。腰をずらし庭に面する障子を横に滑らせると、白梅の綻びはじめた枝で小鳥が羽を休めていた。

「お前、連れはどうした」

棧に腕を乗せ問うと、暗褐色のその鳥は少し首を傾け、ちい、と一声鳴いた。

「去年は一緒に来ていただろう」
ちい。

「添い遂げなかったのか」

ちい、ちい。

「……そうか。蜜柑でいいか」
ちい。

節々の軋む体を動かし、山のように盛られた蜜柑から一つ手に取る。輪切りにしようと思ったが手近に刃物が見当たらず、取りに行くのも億劫に思いその場で皮を剥いた。厚い外皮を剥き、白い筋を無視して房を包む薄皮の端を糸切り歯で食い千切る。薄皮を捲ると瑞々しい粒が零れんばかりであった。

ちいちい、と急かすように鳥が鳴く。白く縁取られた瞳はぬいぐるみのように丸く、蜜柑を熱心に見つめている。

「ほら、これだろう」

皺の目立つようになつた掌に蜜柑を乗せ、差し出した。鳥は臆する事なく掌の端に留まり、小さな鬚で粒を摘んでは飲み込む。

「……わしもな、添い遂げられなかつたんだ」

随分昔にいなくなつてしまつた妻を思い出す。

仕事から次へと舞い込み、付き合いを大事にしなくてはならず、家庭を顧みる暇はなかつた。ある日接待を終えて帰ると、妻の代わりに白い封筒が机の上で待つていた。これは報いなのか。今までの人生を、否定された気がした。独り暮らしにも慣れ、定年を迎え、最期まで独りなのだと思つていた。そうしなければいけないと。買い物からの帰り道、ある家の庭の木に輪切りの蜜柑が刺さつていた。仲睦まじそうな暗褐色の鳥が二羽、交互に啄ばんでいた。生け垣の向こう、縁側で嬉しそうにその様子を眺める老婦人がいた。午後の日差しを浴びたその笑顔に、長らく騒いだことのない胸が激しく騒いだ。彼女がかけてくれた声が、甘い広がりとともにいつまでも耳の奥に残つた。

「老いらくの恋、というのも悪くないな」

名も知らぬ鳥が蜜柑を食べ終えて、まだ冷たさの残る空高く、飛び立っていった。

(後書き)

三題漸として作成したものです。
題：納豆、おいら、ぬいぐるみ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9402w/>

みかんの人生

2011年11月1日02時10分発行